



ROTARY INTERNATIONAL

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO.2650

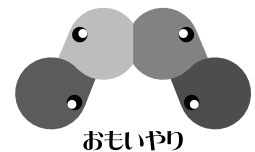


CHOHEI HASHIMOTO

ABS BUILDING

ANEKOJI KAWARAMACHI HIGASHI NAKAGYOKU

KYOTO, JAPAN



No. 4 October 1, 2007

ガバナー月信 第4信 (平成19年10月1日)

第2650地区 ロータリークラブ

国際ロータリー 第2650地区ガバナー

会長・幹事・みなさまへ

橋本長平

●職業奉仕月間と米山月間に念う●

職業奉仕はロータリーの本質

「全奉仕部門の中でも、職業奉仕はロータリーに独自で、しかもロータリーの最も重要な側面です。(略)職業奉仕は、他が手がけていない部門です。」「この職業奉仕あればこそ、ロータリーはあまたある人道的・教育的プログラムの中で、いくつもの難局を切り抜け、殊勲をたてて現在に至ったと誇れるのです。」(ビチャイラタクル氏2007年国際協議会)。他の団体が手がけておらず、ロータリーに独自で、ロータリーの最も重要な側面である職業奉仕を、今月はとくと考えて実践してみる良い機会であります。そのためには、まずロータリーの独自の職業奉仕という考え方の基本を理解しておく必要があります。職業奉仕の基本概念から更に発展させたむずかしい議論が世の中で戦わされていますが、こうした議論に取り組むには、まず基本概念をきっちりとおさえてかからねばなりません。職業奉仕がむずかしいといわれているのは、実は1つはこの基本概念から発展させた難解な議論が多いからであり、もう1つは、職業奉仕の実践がむずかしいからであります。ここでは、職業奉仕の基本概念を説明したうえで、他の奉仕部門との関係性を述べるにとどめたいと思います。

職業というのは、自己の収入を得る道でありますから、おのずから、利己的なものであります。一方、奉

仕というのは、世のため人のために尽くすということであり、奉仕は、本来利他的なものであります。この利己的な職業(収入を得る道)と奉仕(世のため人のために尽くすこと)を同一の次元で考えるというのが、職業奉仕であります。つまり、自分が収入を得るという利己的な行為をしている間にも、同次元で世のため人のために奉仕を実践するのであります。例えていうとわかりやすいので、例を示します。

昔、江戸時代には、有名な刀鍛冶師がいました。彼は、収入を得る手段として刀鍛冶の仕事をしています。その彼が、目の前にある真赤に焼けた刀を一所懸命に鍛え上げていきます。それが、銘刀といわれるまでに鍛えていくのであります。決して手を抜きません。仮に手を抜いても、外見はそう変わらない刀はできそうあります。しかし、彼はそんなことを頭の隅にも置かずに、懸命に打ちつづけて、鍛え上げていきます。何故そんなことをするのでしょうか。その刀鍛冶師の頭の中には、その刀を将来使うであろう侍が、自分の命を守るために抜いた刀が、すぐに折れてしまったり、切れなかつたりすることがないようにとの考えだけがつまっている筈です。だからこそ、刀鍛冶師は一所懸命に刀を鍛えるのであります。刀鍛冶師という収入を得る道を実行しながらも、その刀を使用するであろう他人のことをつねに頭の中に入れていた刀鍛冶師は、